

第6回「山形県家計消費動向調査」結果

(平成19年12月調査)

【調査結果の要旨】

- ◆ 消費指数は前回調査時点（平成19年9月）よりも27.7ポイント低下し、104.7となるなど、消費マインドは依然として低調となっている。今後の見通しについては、消費指数がさらに8.2ポイント低下して112.9となるなど、低調のまま推移する見通し。
- ◆ 本調査に先立って公表した「第13回 県内企業景気動向調査」（平成19年11月調査）においては、県内企業の業況が夏以降弱含んでいると報告した。また、本調査の結果からもわかるように、県民の消費マインドも一向に回復の兆しがうかがわれないなど、県内経済は生産、所得、支出のサイクルに弱さがみられる。今月に入って約3年ぶりに日本銀行の景気判断が下方修正されるなど、ここにきて全国の景気動向にも弱さがみられる。今後、本県をはじめ、地方圏の景気動向にいつそう弱さが見られれば、全国の景気をさらに押し下げる要因ともなりかねないことから、今後の動向を注視する必要がある。
- ◆ 特別調査：最近の勤務実態について

平成19年12月

株式会社荘銀総合研究所

目次

・ 今月の消費指数	1
・ 調査結果	3
1 . 景気判断と見通し	3
県内景気	3
雇用環境	4
日用品価格（物価）	5
2 . 暮らし向き判断と見通し	6
世帯（勤労）収入	6
資産価値	7
お金の使い方	8
生活のゆとり	9
3 . 日常の買い物に関する判断と見通し	10
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）	10
ファッション衣料・靴など	10
家電・AV製品、家具など	11
金融商品（株式、債券など）	11
娯楽・レジャー	12
習い事	12
交際費	13
4 . 大きな買い物に関する判断と見通し	14
自家用車	14
住宅の購入・リフォーム	14
5 . 特別調査：最近の勤務実態について	15
世帯主（もしくは主たる収入の担い手）の勤務先	15
時間外勤務（残業）の状況	16
休暇取得の状況	16
勤務状況への不満	17
不満に感じていること（複数回答）	17
・ 調査の概要	18

・今月の消費指数

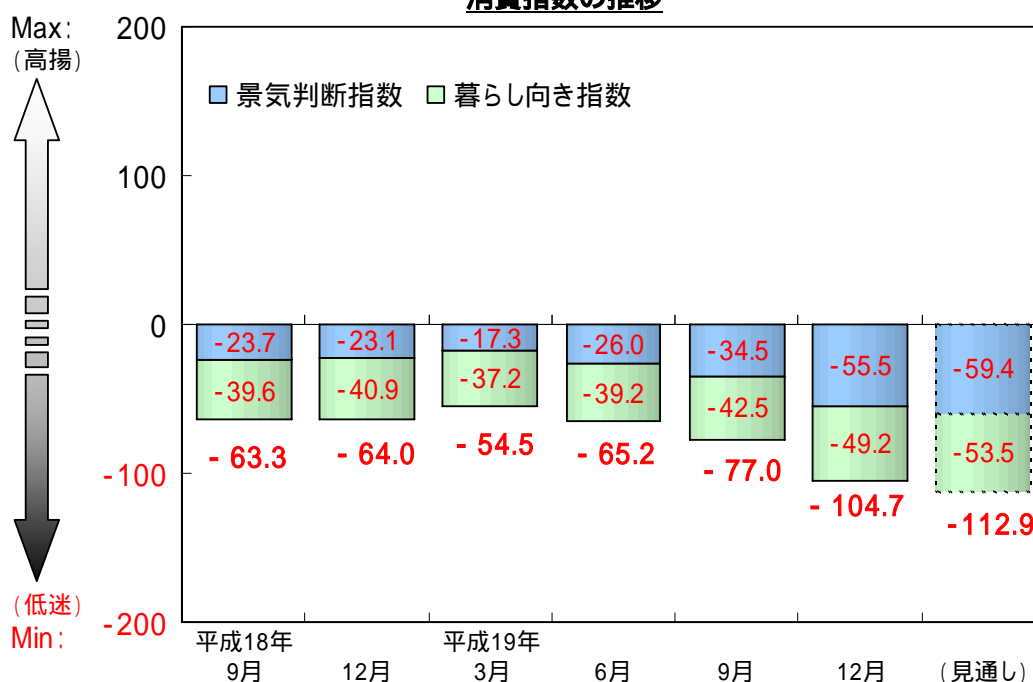
消費指数は 104.7 ~ 消費マインドは低調 ~

消費指数は前回調査時点(平成19年9月)よりも27.7ポイント低下し、104.7となるなど、消費マインドは依然として低調となっている。

消費指数の内訳は景気判断指数が55.5、暮らし向き指数が49.2となっており、いずれも前回より低下した。特に、景気判断指数が大幅に低下したのは、物価上昇に懸念を抱く消費者が増えたことによる(次頁参照)。

なお、今後の見通しについては、消費指数が8.2ポイント低下し112.9となるなど、低調のまま推移する見通し。

消費指数の推移



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数と暮らし向き指数の合計からなり、値は200～200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します(詳しくは、調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください)。

景気判断指数(指数レンジ100～100):

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」に関する設問の回答結果から作成されます。

暮らし向き指数(指数レンジ100～100):

「我が家の暮らし向き」をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

消費指数の推移（内訳）

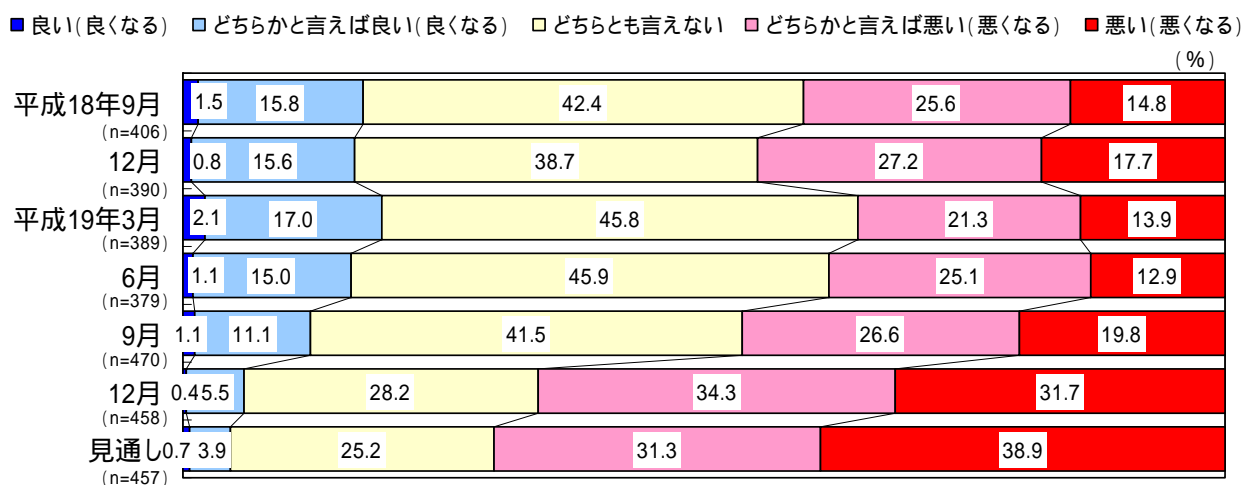
	平成 18 年 9 月	12 月	平成 19 年 3 月	6 月	9 月	12 月	見通し
消費指数	- 63.3	- 64.0	- 54.5	- 65.0	- 77.0	-104.7	- 112.9
（前回差）		(- 0.7)	(9.5)	(- 10.5)	(- 12.0)	(-27.7)	(- 8.2)
景気判断指数	- 23.7	- 23.1	- 17.3	- 25.9	- 34.5	- 55.5	- 59.4
（前回差）		(0.6)	(5.8)	(- 8.6)	(- 8.6)	(- 21.0)	(- 3.9)
景気	- 6.1	- 7.6	- 4.7	- 5.6	- 8.8	- 15.2	- 17.3
（前回差）		(- 1.5)	(2.9)	(- 0.9)	(- 3.2)	(- 6.4)	(- 2.1)
雇用環境	- 3.6	- 5.0	- 4.0	- 3.9	- 9.1	- 12.1	- 14.4
（前回差）		(- 1.4)	(1.0)	(0.1)	(- 5.2)	(- 3.0)	(- 2.3)
物価	- 14.0	- 10.5	- 8.6	- 16.4	- 16.6	- 28.2	- 27.7
（前回差）		(3.5)	(1.9)	(- 7.8)	(- 0.2)	(- 11.6)	(0.5)
暮らし向き指数	- 39.6	- 40.9	- 37.2	- 39.1	- 42.5	- 49.2	- 53.5
（前回差）		(- 1.3)	(3.7)	(- 1.9)	(- 3.4)	(- 6.7)	(- 4.3)
世帯収入	- 8.0	- 8.0	- 6.8	- 6.8	- 8.7	- 10.3	- 12.1
（前回差）		(0.0)	(1.2)	(0.0)	(- 1.9)	(- 1.6)	(- 1.8)
資産価値	- 9.7	- 10.1	- 9.0	- 9.9	- 9.3	- 11.4	- 13.1
（前回差）		(- 0.4)	(1.1)	(- 0.9)	(0.6)	(- 2.1)	(- 1.7)
支出状況	- 8.6	- 9.4	- 8.5	- 9.6	- 10.6	- 11.7	- 13.8
（前回差）		(- 0.8)	(0.9)	(- 1.1)	(- 1.0)	(- 1.1)	(- 2.1)
暮らしのゆとり	- 13.3	- 13.4	- 12.9	- 12.8	- 13.9	- 15.8	- 14.5
（前回差）		(- 0.1)	(0.5)	(0.1)	(- 1.1)	(- 1.9)	(1.3)

調査結果

1. 景気判断と見通し

県内景気

現状認識は「悪い」(31.7%)と「どちらかと言えば悪い」(34.3%)が66.0%を占めており、前回調査時点と比べ、県内の景気に対して暗い認識を持っている世帯が大幅に増えた。また、今後の見通しについても「悪い」(38.9%)と「どちらかと言えば悪くなる」(31.3%)と考えている世帯の割合がさらに増え、70.2%の世帯が悪くなると予想している。



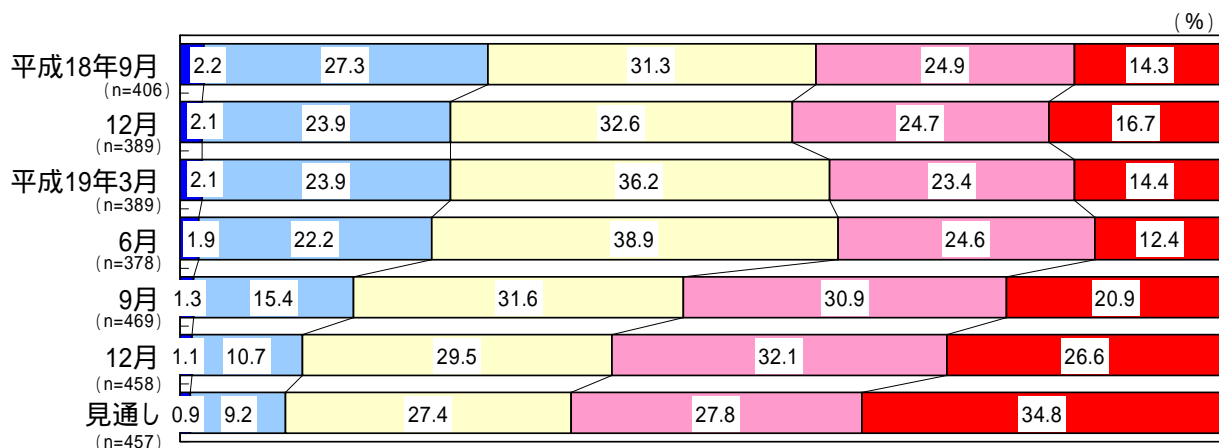
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- 生活しにくくなりました。灯油、ガソリンも東京並に高くなり、国民ばかり苦労していると思います。1年1年と景気が悪くなり、物価は高く、仕事はなく、大変困っています。(村山地区 43歳 300~499万)
- 収入より支出の方が多くなる。景気はいつになったら良くなるのか。(村山地区 60歳 -)
- 近所の企業が民事再生を申し立てるなど、世間一般に法人を中心とした好景気と言われているのとは裏腹な状況が見られる。上京するたびに感じる地方と都市部の格差。ますますその差が開いているように感じる。(村山地区 33歳 500~799万)
- 都市部の大手企業のみ景気や雇用環境が良くなっているが、依然として地方の中小企業の経営状況はよくなっていない。経費削減、リストラはまだまだ行われている。物価は上昇する一方でますます家計が圧迫されている。(庄内地区 40歳 500~799万)
- 景気は良くなっているというが、現実には末端が悪くなっている。中小企業の経営状態が良くない。物価は上がるが給料は上がらない。金利は上がるが、利息は無いに等しい。一般人が良くなるはずはない。(庄内地区 36歳 300~499万)
- ガソリン、灯油の値上げで家計が直撃されています。給料は上がらず、不景気でこの状況ではますます苦しい生活が続きそうです。節約するにも限界があり、先行きが大変不安です。(庄内地区 46歳 300~499万)
- 残業は増えたものの、給料は増えず、物価も上がっているの、景気が上がった実感はまったくなく、逆に生活は前よりも苦しくなった。(庄内地区 36歳 500~799万)
- ようやく落ち着き始めた景気に原油高が大きいのしかかってきて、この先とても不安を感じます。あちこちで値上げのニュースが流れ、今後家計を圧迫するのが目に見えています。資源を持たないこの国では、これからは様々な物質でこのようなことが起きてくるのではないかととても心配です。(村山地区 49歳 500~799万)
- ガソリンの価格高騰により日用品の値段も上がり、家計は苦しくなっている。景気が上向きとは考えにくい状況である。(村山地区 46歳 ~299万)

雇用環境

現状認識は「悪い」(26.6%)と「どちらかと言えば悪い」(32.1%)を合わせると58.7%が悪いと判断しており、前回調査より徐々に雇用不安が広がっている。また、今後の見通しについても「悪くなる」(34.8%)と「どちらかと言えば悪くなる」(27.8%)と考えている世帯は62.6%となっており、先行きの見通しも暗い。

■ 良い(良くなる) □ どちらかと言えば良い(良くなる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば悪い(悪くなる) ■ 悪い(悪くなる)



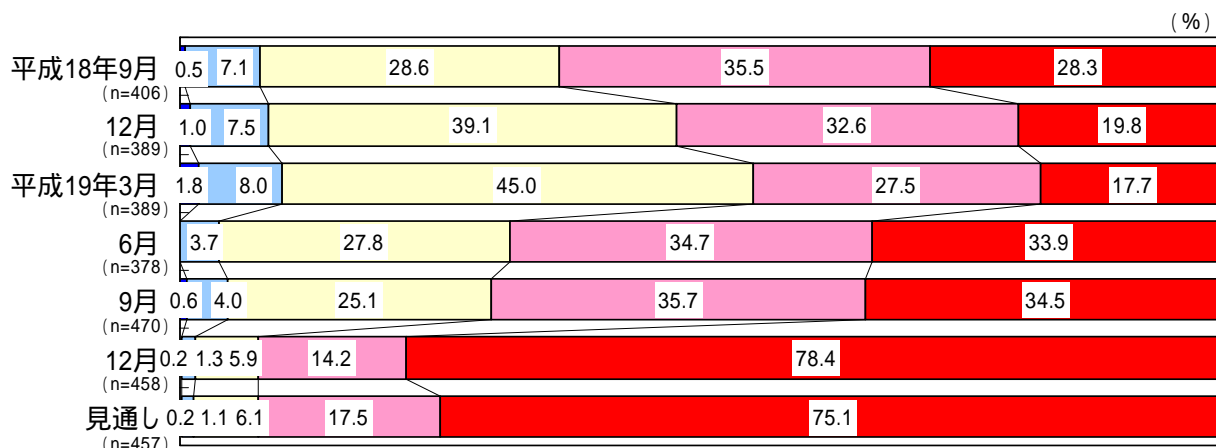
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ 世帯主の収入が増加しないために、妻の収入がなくては生活が保てない状況。しかし、年齢を重ねるごとに現職継続に困難さが生じてきており、将来に対し不安が生じる。(村山地区 53歳 800万~)
- ・ パート職員の給料、待遇、勤務条件は表向きに比べその実態は厳しいものがあると思う。自分のところもそうだが、他の職場でも約束と違うことが色々あるようだ。サービス残業が多いなど労働に対する金銭の支払いが適切でない。(村山地区 42歳 500~799万)
- ・ パート、アルバイトの仕事内容が社員と同じでも給料の差が大きいことに不満があります。給料の差がある分、仕事内容も簡単ならば納得もいくのですが。(庄内地区 55歳 800万~)
- ・ 主人の仕事が厳しい。私も住宅業界で仕事をしているが、雇用自体危うい。求人も年齢から考えるとなかなか難しい。(庄内地区 38歳 300~499万)
- ・ 来年からの就職を考えていますが、雇用状況は最悪です。生活の質を落とすことは、言葉では簡単ですが、実際は容易ではなく、退職金など預貯金での補填を余儀なくされそうです。(庄内地区 58歳 ~299万)
- ・ 年齢とともに職場においてある程度責任ある立場となり、勤務時間はあてないような状態で働いているように思いますが、それに応じた待遇、給料かと思うとそうではないように感じております。身体上も精神的にもストレスを感じながら働いているような。(村山地区 54歳 800万~)
- ・ 子供が大きくなるにつれて習い事や教育費の割合が大きくなってきた。うちの場合、母子家庭で収入は多いければ多いほどいいのですが、子供との時間や家事の時間を取りたいので数年パートで働いています。正社員でも休暇や半休を取りやすければよいのですが。(村山地区 32歳 ~299万)
- ・ 40代半ばの友人が会社の経営難で失職。ハローワークで紹介された建設業者からはやんわりながら「体力は持ちますか」と中高年を敬遠する言葉を言われたそうです。子供が小さいため、深刻な話です。(村山地区 48歳 500~799万)

日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（78.4%）と「どちらかと言えば上がった」（14.2%）が 92.6% を占めるなど、日用品価格に対して値上がり感を抱く世帯が非常に多い。また、今後の見通しについても、「上がる」（75.1%）と「どちらかと言えば上がる」（17.5%）を考えている世帯は依然として9割を超えているなど、物価上昇に対する警戒感は極めて高い。

■ 下がった(下がる) □ どちらかと言えば下がった(下がる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば上がった(上がる) ■ 上がった(上がる)



【主な自由回答（住まい、世帯主年齢、世帯収入）】

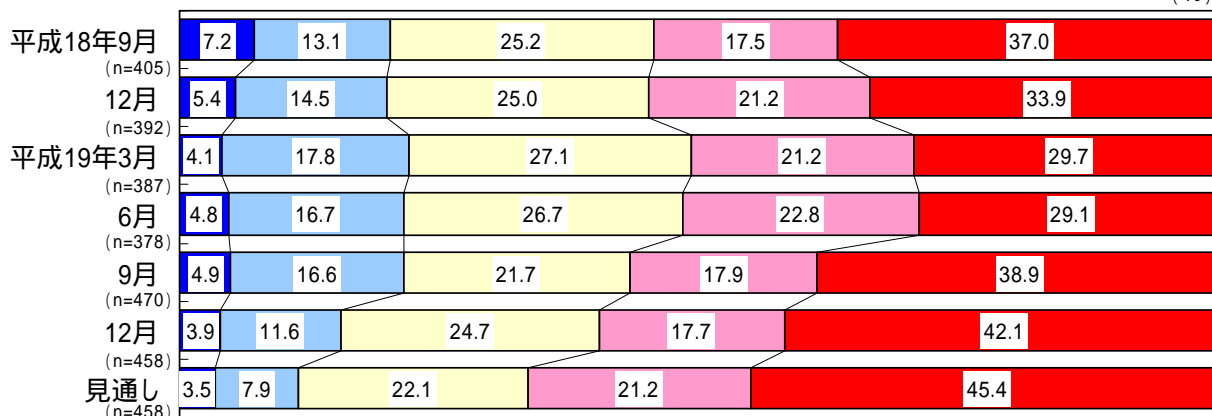
- ・ とにかくガソリンの値上げが一番つらいです。山形では車無しでは不便ですので、ガソリンがこれ以上値上がりすれば家計に打撃です。（村山地区 47歳 300～499万）
- ・ 灯油、ガソリンをはじめ、今後の物価上昇がどこまで続くのか心配である。（村山地区 52歳 800万～）
- ・ 石油の高騰で様々な商品が軒並み値上がりが続いています。（村山地区 48歳 300～499万）
- ・ ガソリン価格は、今後値上げが予想される。更に来月からはコーヒー、ビール、麺類など生活に欠かせないものが値上げになるので、今後の生活は大変厳しいと思います。（最上地区 50歳 500～799万）
- ・ 12月からのガソリン、灯油の値上げは大打撃です。これから紙類や小麦、大豆などの値上げは小さな子供のいる家庭ではダブルパンチ。（置賜地区 44歳 500～799万）
- ・ ガソリン高騰には本当に頭を抱えています。灯油代についてもそうです。幼い子供がいるし、私も妊娠中なので、極度に節約するわけにもいきません。食料品についても、子供が好きなパン、麺の価格が上昇して家計に影響しています。他にも、日用品のティッシュ、トイレトペーパー、子供のオムツやおしり拭き、きりがないです。（村山地区 34歳 500～799万）
- ・ 石油製品、食料品、日用雑貨など値上げのオンパレードでやりくりが大変です。せめて今年も暖冬になって少しでも灯油代が少なくすめばと思っています。（村山地区 39歳 300～499万）
- ・ ガソリンの値上げに始まり、すべての物の価格が値上がりして、収入が増えないのに、支出が増えるなど暮らしにくくなる一方です。（村山地区 79歳 500～799万）
- ・ 石油、原油高の影響でガソリン代が大変。我が家は4台の車を所有しており、跳ね上がっています。ガソリンの税金を一時的に軽減するなどの措置を国にお願いしたい。他の物価もじりじり上がり、先行きが不安です。（村山地区 63歳 800万～）
- ・ 食料品など日用品が上がり、これから寒くなるのに、灯油、ガソリンの値上がりでみんなの財布が固くなり、売上が上がらない。人も出歩かないようだ。（村山地区 43歳 ～299万）
- ・ 灯油の高騰には頭を悩まされている。ガソリンについても1リットル150円を超えるとかなり厳しい状況である。節約生活の転機だが、運送業は大変と思う。（庄内地区 27歳 500～799万）

2.暮らし向き判断と見通し

世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(42.1%)と「どちらかと言えば減った」(17.7%)が59.8%を占めており、引き続き半数以上の世帯が収入は減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えているなど、収入の増加に期待する世帯は少ない。

■ 増えた(増える) □ どちらかと言えば増えた(増える) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば減った(減る) ■ 減った(減る) (%)



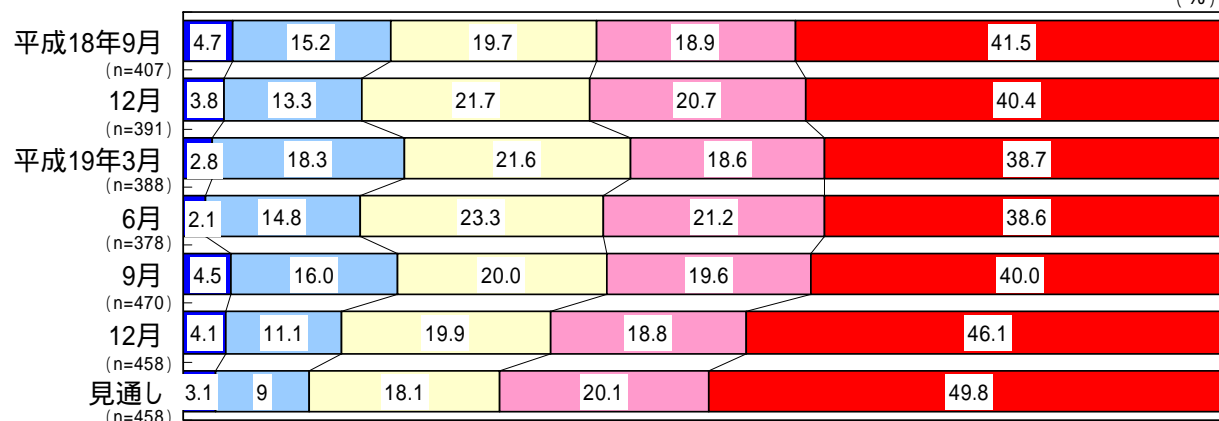
【主な自由回答（住まい、世帯主年齢、世帯収入）】

- ・ いろいろなものが値上がりしているのに、収入は減る一方。収入は減っても勤務状況は悪化する一方。いつまでこの不況状態が続くのか心配です。(村山地区 30歳 ~ 299万)
- ・ 今後の生活に不安がいっぱいです。仕事をやっても収入に限りがあり、ますます苦しくなる状況です。大企業の収入がうらやましいです。(村山地区 52歳 300~499万)
- ・ 物価ばかり上がって、給料は上がらない。仕事量は人を減らしているのだから増えています。精神的にも身体的にもかなり大変です。もう少し余裕を持った生活がしたいです。(村山地区 27歳 300~499万)
- ・ 収入は固定されていて上がることはなく、退職金も制度が変わりあやしくなっている。(村山地区 53歳 800万~)
- ・ 職場ではボーナスの話は何もありません。やりくりで終わる一年です。(村山地区 38歳 300~499万)
- ・ 勤め先である運送会社の経営状況も厳しいものとなっており、そのあおりを受け、給与、賞与などにも影響。今後が不安である。(村山地区 49歳 300~499万)
- ・ 忙しいのに収入が上がらない(最上地区 60歳 800万~)
- ・ 給与も減る一方で、なかなか預金もできない状況です。どのようにすれば将来安心できるくらいのゆとりが持てるか、先々不安です。(最上地区 61歳 500~799万)
- ・ 仕事が増えているのだが、いっこうに生活が豊かにならないのが現状です。なるべくお金をかけないように思うが、子供の教育など昔に比べお金がかかるように思える。(最上地区 53歳 500~799万)
- ・ 定年年齢より2年も前に退職をし、思ったより年金が少ない。その上失業保険も5か月分と頭の痛い年末です。(村山地区 59歳 300~499万)
- ・ 残業は増えたものの、給料は増えず、物価も上がっているのに、景気が上がった実感はまったくなく、逆に生活は前よりも苦しくなった。(庄内地区 36歳 500~799万)

資産価値

現状認識は「減った」(46.1%)と「どちらかと言えば減った」(18.8%)が64.9%を占めており、引き続き半数以上の世帯が資産価値は減ったと感じている。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」と考えている世帯の割合が増え、資産価値の増加を見込む世帯は少ない。

■ 増えた(増える) □ どちらかと言えば増えた(増える) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば減った(減る) ■ 減った(減る) (%)

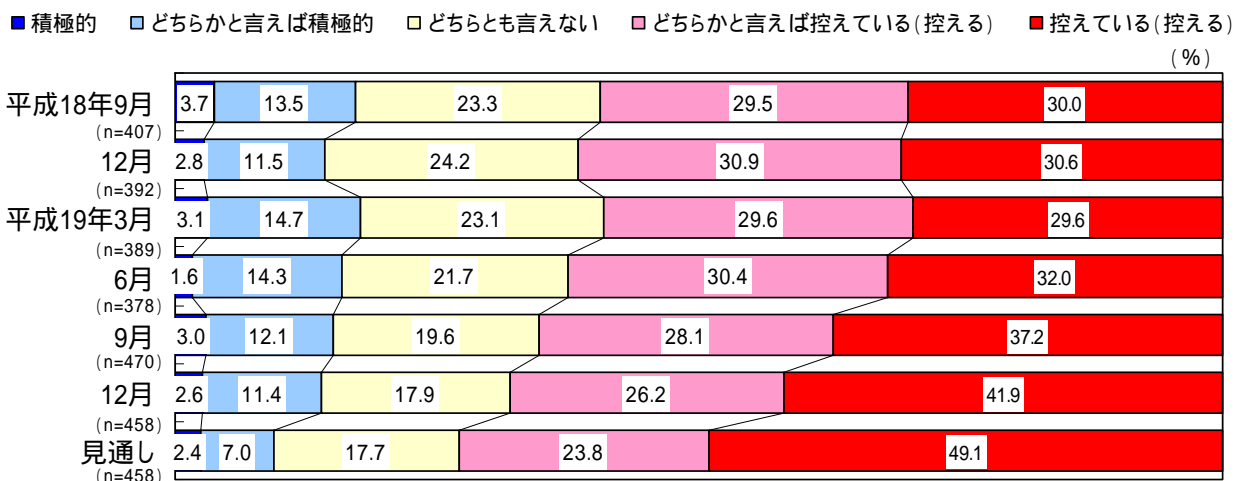


【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- 株の下落もあり、投資信託も基準価格が下がって購入に不安あり。友人はここ1、2年でだいぶもうけたとの事。私も!!と思ったのだが、なかなかうまくいかない。ゆうちよも不安の要因。(村山地区 61歳 -)
- 主人の会社の持株会に入っていますが、今の株価は以前の3分の1です。何とか持ち直してほしいです。(村山地区 37歳 500~799万)
- 株などの含み資産が目減りするなど、先行きが不安です。(村山地区 58歳 500~799万)
- 住宅ローンの金利も上がり傾向にあるなど、暮らしが厳しくなっている。(庄内地区 28歳 300~499万)
- 物価高、ローンの金利高、利息が高すぎて、返しても返しても残高は減りません。(村山地区 34歳 300~499万)
- 投資信託をしているがマイナスになるばかりでもうやめようと思っている。(庄内地区 42歳 300~499万)
- 新築したばかりなので、住宅ローンの支払いが大変です。ローンを支払いつつも投資などで、何かと増金しようとしていましたが、ここに来て元本割れになった商品がいっぱいで残念です。インド、中国、国内物の投資をしていましたが、インド以外は全て元本割れになってしまい、今ストップしています。山形の状況は大変悪いと思います。これからも期待できません。(村山地区 54歳 800万~)

お金の使い方

現状認識は「控えている」(41.9%)と「どちらかと言えば控えている」(26.2%)が68.1%を占めており、お金を使うことを控えている世帯の割合は徐々に増えている。また、今後の見通しについても「控える」という世帯がさらに増えているなど、節約に努める世帯が多い。



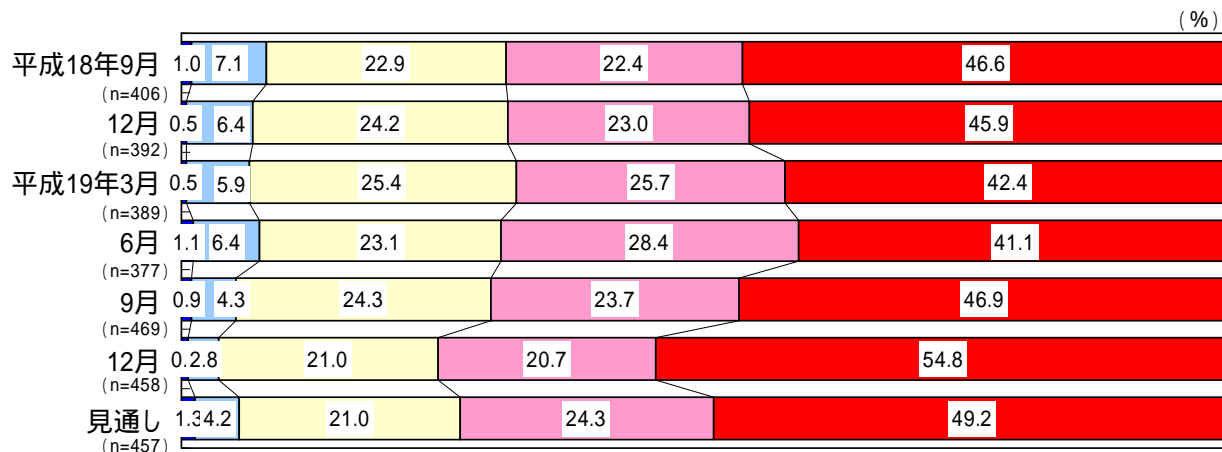
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- 物の値段がものすごく上がっているの、消費を手控えるようになった。とにかくいらぬものは、買わないような意識を持つ事にした。(村山地区 47歳 300~499万)
- ガソリン、灯油などエコ生活を考え、とにかく無駄を無くすことを考えている。生活を目に見えるもので豊かにするのではなく、見栄や外面にとらわれず意味あるお金の使い方を心掛けている。(村山地区 45歳 500~799万)
- 日常生活するものの価格が上がってきて、更にガソリン代がどんどん上がるので、レジャー(特に遠出)を控えるようになりました。(村山地区 34歳 300~499万)
- ガソリン代がどんどん値上げし、休日に家にいる時間が増えたような気がします。また、物価も上がっているせいか、買い物に行く回数も減ってきた。全体的にお金を使わなくなったような気がする。(村山地区 30歳 300~499万)
- 12月に入りガソリン価格が150円台に突入し、本当に経済的にゆとりがなくなっています。郡部在住ですが、市内に行くのも以前は月に4~5回用事で行っていたのが、まとめて用事ができてから出かけるほどです。(庄内地区 47歳 300~499万)
- ガソリンなどの値上げにより、買い物などは極力子供との散歩をかねて、歩いて近場のスーパーに行くようになった。(庄内地区 30歳 ~299万)
- ガソリンに、灯油が今後どこまでUPするのか不安。車も代替の時期となり、燃費の良いものを購入予定。(庄内地区 37歳 300~499万)
- 石油高騰により、暖房費、通勤費が家計を圧迫してきました。収入は増える見通しもなく、もともと切り詰めていた食費も更に切り詰めざるを得ない状況です。(庄内地区 34歳 ~299万)
- 食費、日用品など次々と値上がりしている。カレー粉は日持ちするので買いためている。トイレトペーパーもまた上がりそうなので、買いためている。(庄内地区 40歳 300~499万)
- 灯油、ガソリン代の値上げで本気で購入を控えて生活しています。最低限子供の生活面に対してのみ積極的に支出しているのが現状です。省エネ対策を本気で考えながら冬期間に向けて生活しております。(庄内地区 54歳 500~799万)
- ガソリン価格が上昇しているため、車を利用する距離に注意してガソリン代の1か月分の予算を決めて、その中で走るように心掛けています。その分、衝動買いが少なくなったように思います。(庄内地区 62歳 500~799万)

生活のゆとり

現状認識は「厳しい」(54.8%)と「どちらかと言えば厳しい」(20.7%)が75.5%を占めており、引き続き半数以上の世帯が暮らし向きは厳しいと感じている。また、今後の見通しについても、同様に半数以上の世帯が厳しくなると見込んでいるなど、依然として生活にゆとりを実感できないでいる世帯は多い。

■ ゆとりがある(できる) □ どちらかと言えばゆとりがある(できる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば厳しい(厳しくなる) ■ 厳しい(厳しくなる)



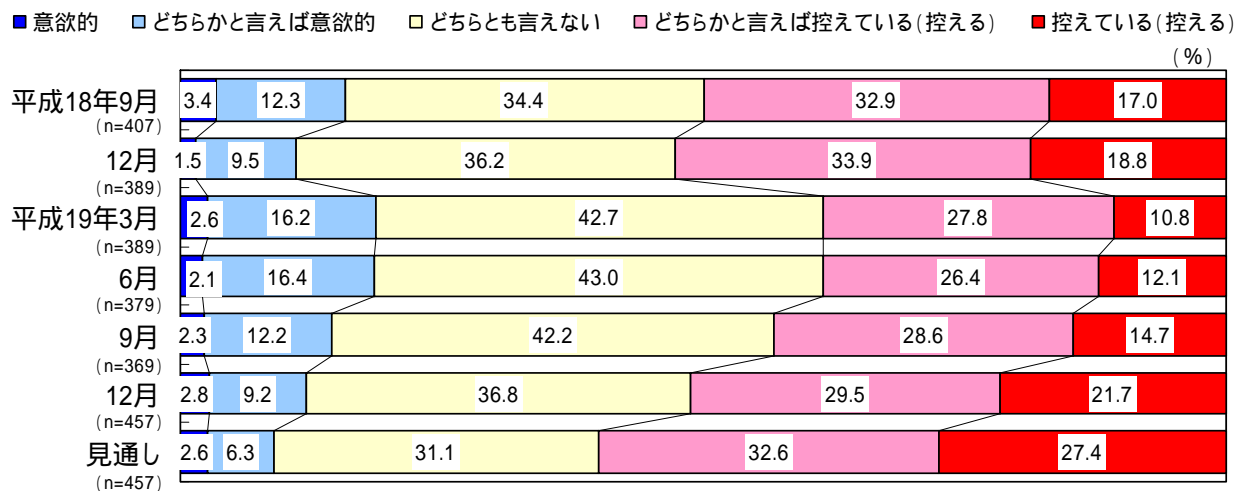
【主な自由回答 (住まい、世帯主年齢、世帯収入)】

- ・ ガソリンが上がり、食費を削って、ほしいものは母親が我慢して子供のためになるようにと、習い事はやめずにがんばっています。新聞をやめたり、医者に行く回数を減らしたり、日頃から気をつけなくてはやっていけません。(村山地区 37歳 500~799万)
- ・ 普段どおりの生活をしていれば、月々の家計が赤字になることもないとしても、例えば、親の介護のため帰省もしくは日常生活と少し違う生活となると家事をする時間がなくなったりして、外食したりとか、余計な出費が重なるとあつという間に赤字になってしまう。月々にもっと余裕があれば良いのですが。(村山地区 41歳 300~499万)
- ・ ガソリン代の急騰により、家計が圧迫されつつある。金額的にもだが、精神的にもゆとりをもって、日常を楽しむという心の余裕がなくなってきたようで少々寂しい。その家なりの楽しみ方、こだわりのようなものをもって、生活していくことが必要だと感じている。(村山地区 47歳 500~799万)
- ・ 生活にゆとりがない。将来のことを考えるとお金を使うことができない。(村山地区 68歳 500~799万)
- ・ 節約しようという意志はあるのですが、人付き合いなどで出費してしまったり、食品、ガソリンの値上げでなかなか預金もままなりません。(村山地区 59歳 ~299万)
- ・ 灯油、ガソリン、食費などは、上がっているが給料は上がらない状態が長く続けば、ますます暮らしは厳しくなると思う。(置賜地区 43歳 300~499万)
- ・ 子供が大きくなるにつれて、習い事にかかる費用が家を圧迫するようになってきた。今後更に節約をしながら生活をしなければと思っています。(置賜地区 - 300~499万)
- ・ 税金も高く、物価も値上がりし、これからは灯油やガソリン代が家計にひびきます。収入の割には税金が高く、年金、健康保険料を支払うとほとんど余裕がありません。(庄内地区 50歳 300~499万)
- ・ 物価が上がり、物が買えない。日々の生活はやりくりして我慢して乗り切っても、急な出費には対応が難しく、不安でいっぱい。子供の教育費もどんどん重さを感じる。今後も増える一方なので頭が痛い。収入を増やすにも限界がある。賃金の低さもずしりと重い。(村山地区 38歳 -)
- ・ ガソリンや灯油の値が上がり、それに伴う食品や日用品の値上がり。がんばって働いてくれても驚かせずに暮らしていくだけで精一杯です。節約節約の日々です。(村山地区 33歳 300~499万)
- ・ 子供がどんどん大きくなり、お金もかかるようになってきたので、パートを始めたが、家計の赤字を埋めることくらいしかできず、貯金ができない。(庄内地区 41歳 500~799万)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

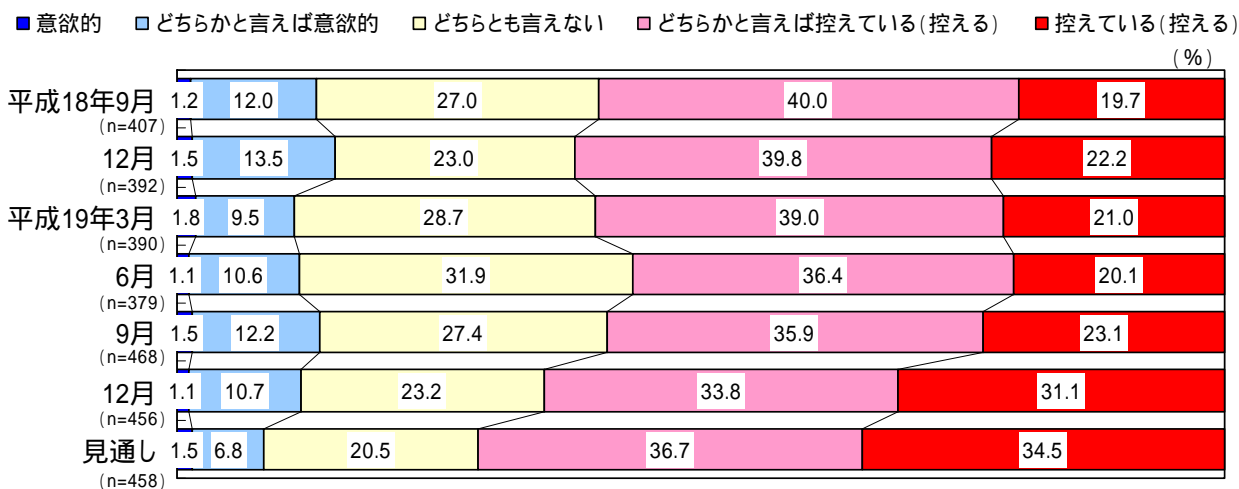
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」(21.7%)と「どちらかと言えば控えている」(29.5%)が51.2%を占めており、半数以上の世帯が嗜好品の購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を「控える」という世帯がさらに増えるなど、節約に努める世帯は多い。



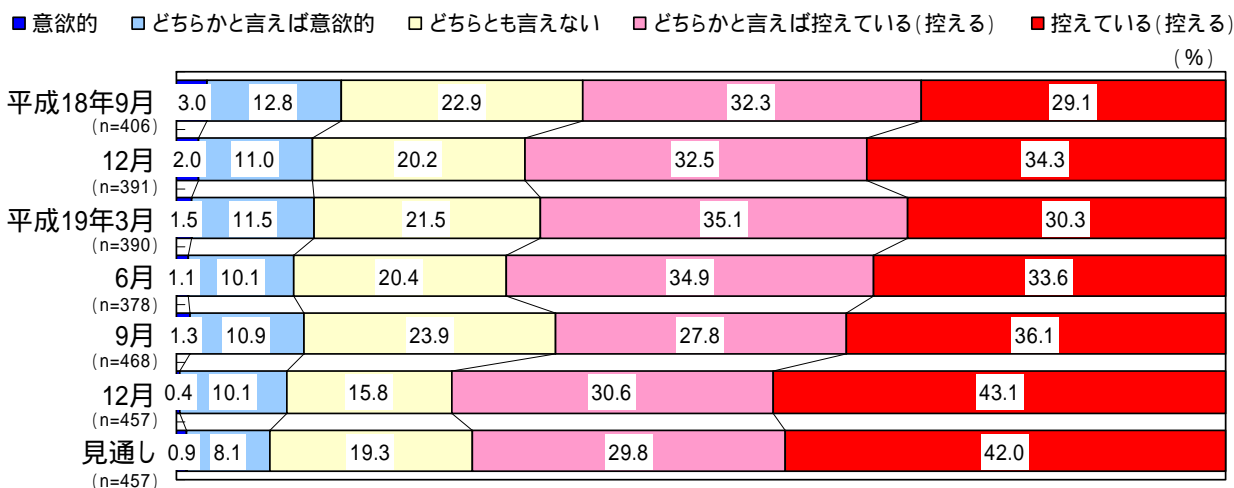
ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」(31.1%)と「どちらかと言えば控えている」(33.8%)が64.9%を占めており、引き続き半数以上の世帯はファッション衣料・靴などの購入を控えているほか、買い控えの傾向が高まっている。また、今後の見通しについても買い控え傾向は続く見込み。



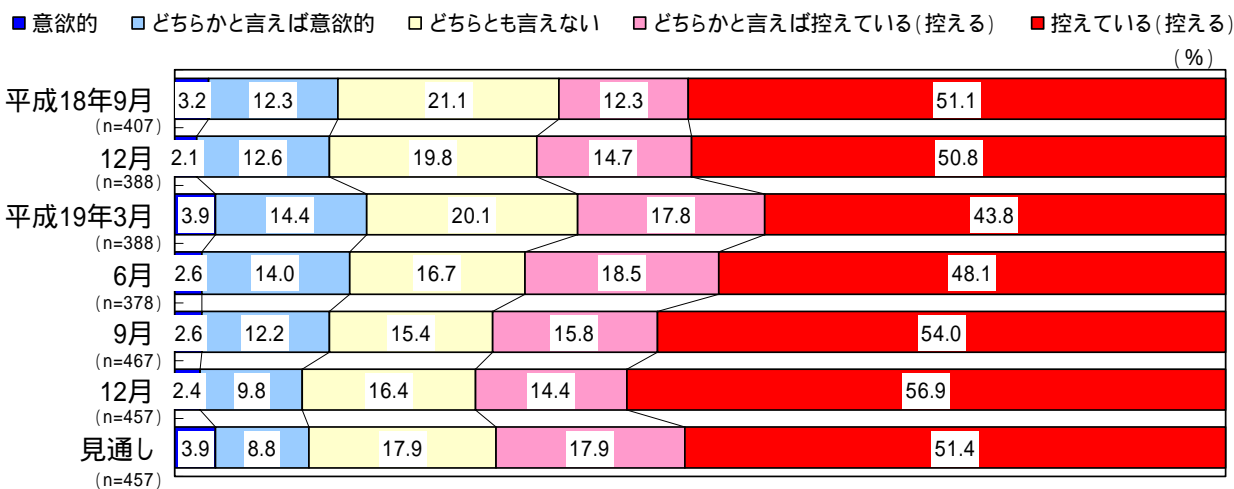
家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(43.1%)と「どちらかと言えば控えている」(30.6%)が73.7%を占めており、前回調査時点よりも世帯が家電・AV製品、家具などの購入を控えている。また、今後の見通しについても、引き続き買い控え傾向は続く見込み。



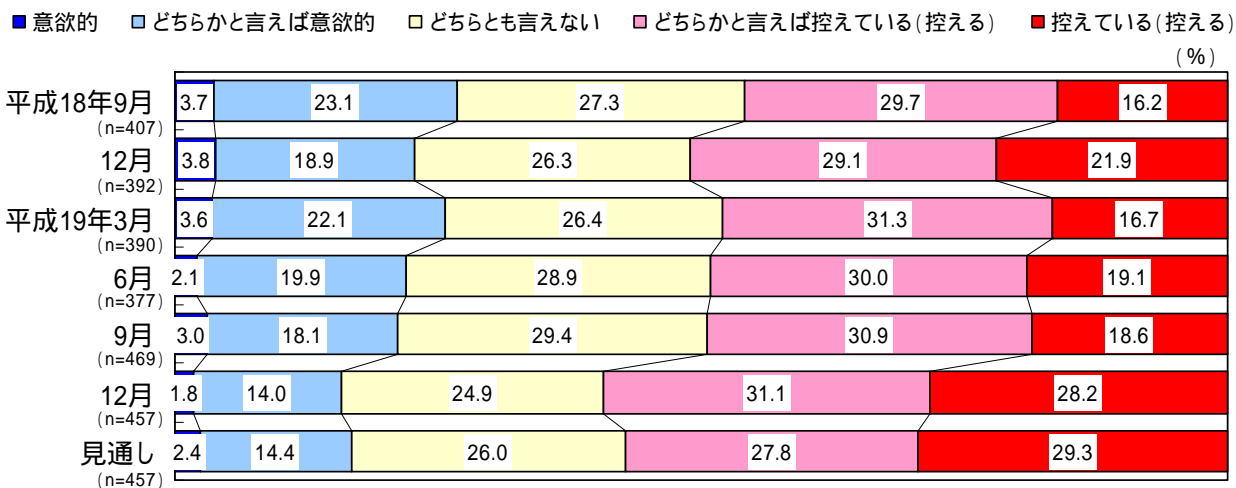
金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(56.9%)と「どちらかと言えば控えている」(14.4%)が71.3%を占めており、引き続き半数以上の世帯が金融商品の購入を控えているほか、買い控えの傾向も徐々に高まっている。また、今後の見通しについても、購入を控えるという世帯は依然として多く、購入に慎重な世帯が多い。



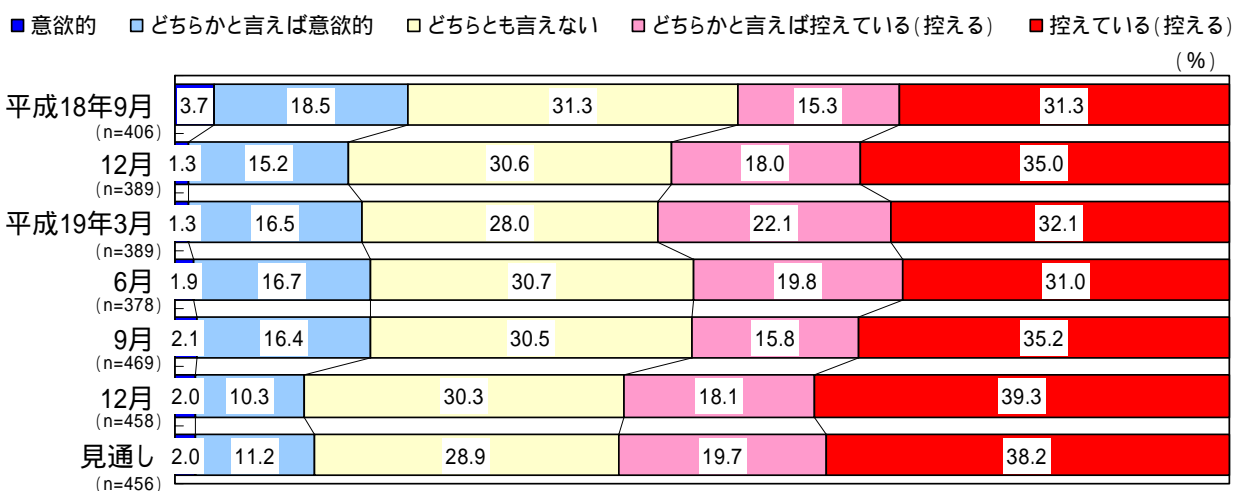
娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(28.2%)と「どちらかと言えば控えている」(31.1%)が59.3%を占めており、半数以上の世帯が娯楽・レジャー等への支出を控えている。また、今後の見通しについても、引き続き支出を控える世帯は多い。



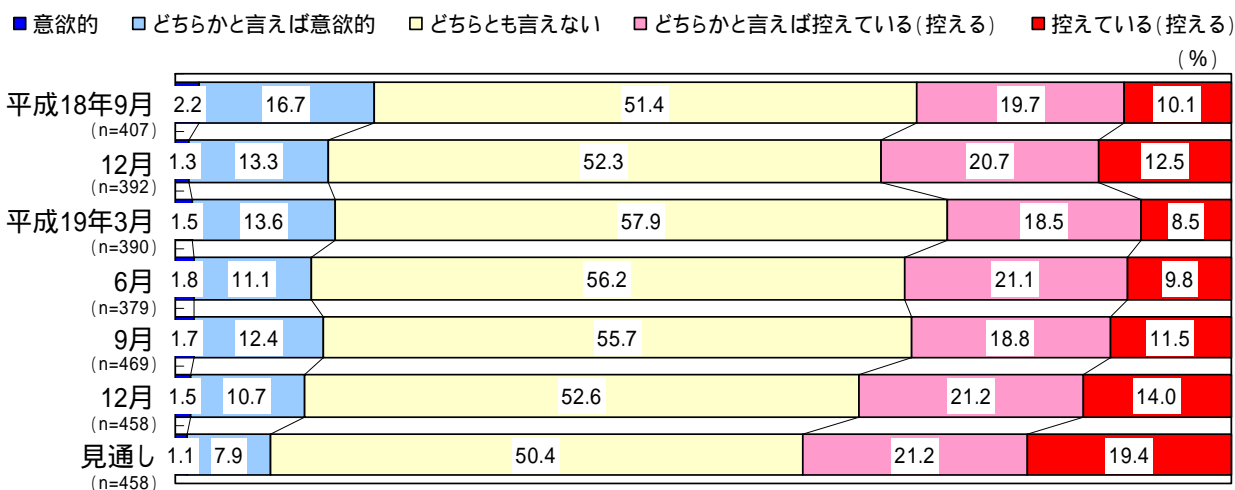
習い事

現状認識は「控えている」(39.3%)と「どちらかと言えば控えている」(18.1%)が57.4%を占めており、引き続き習い事への支出を控えている世帯が多い。また、今後の見通しについても、支出を控える世帯は多い。



交際費

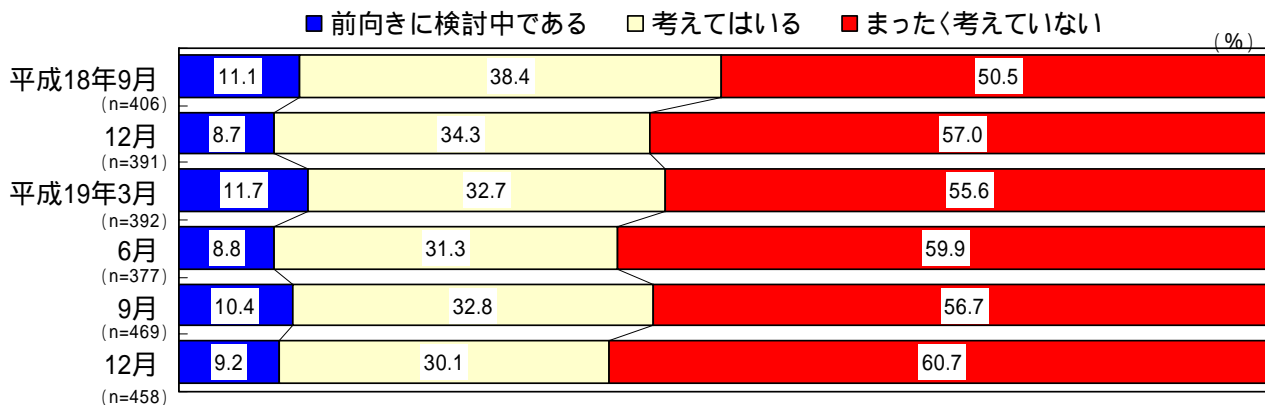
現状認識は「控えている」(14.0%)と「どちらかと言えば控えている」(21.2%)が35.2%を占めており、交際費を節約している世帯が徐々に増えている。また、今後の見通しについても、交際費の支出を控えるという世帯の割合は引き続き増えており、支出を手控える傾向は続く。



4. 大きな買い物に関する判断と見通し

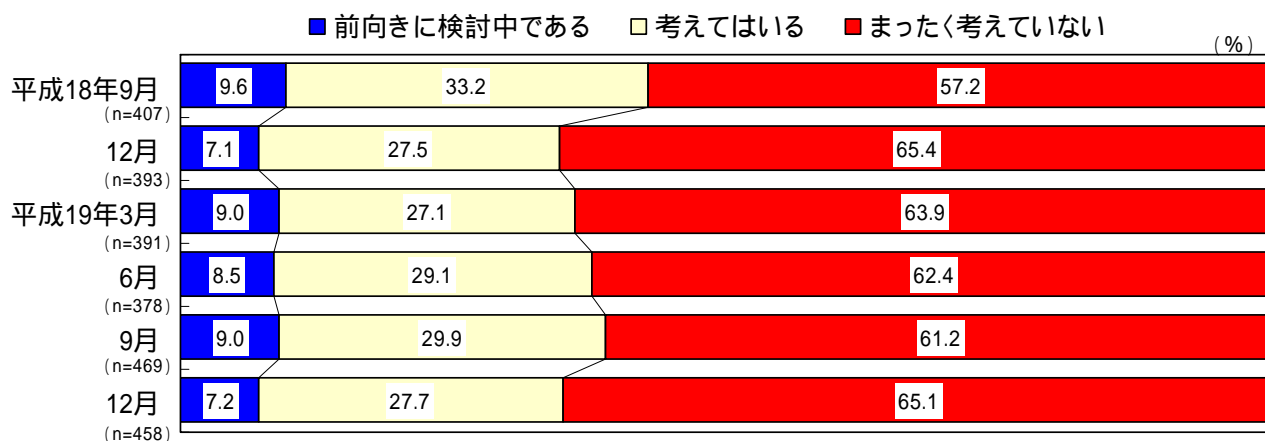
自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が60.7%を占めている。前回調査時点と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は4.0%ポイント増えるなど、ガソリン価格も高値で推移していることから、引き続き購入を手控える世帯は多い。



住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が65.1%を占めている。前回調査時点と比べて「まったく考えていない」とする世帯の割合が3.9%ポイント増えるなど、支出を控える動きもみられる。

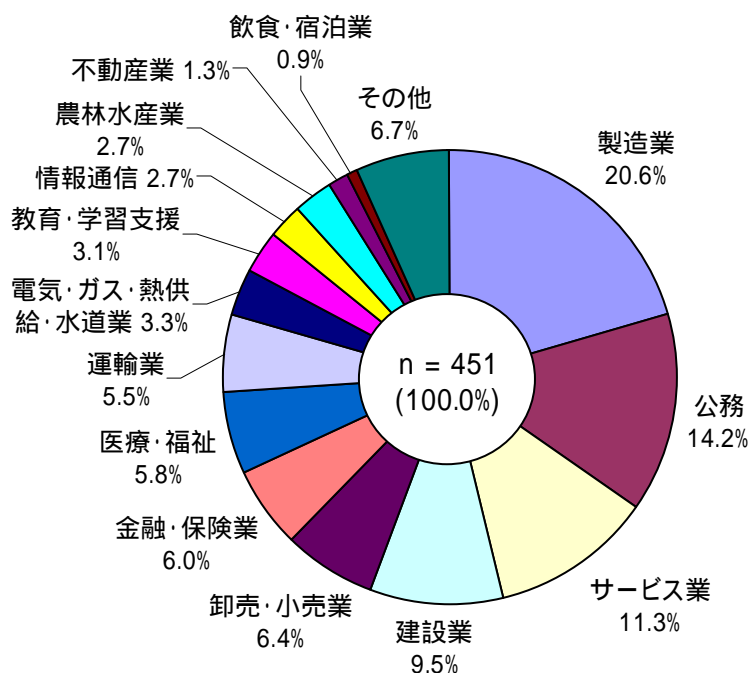


5. 特別調査：最近の勤務実態について

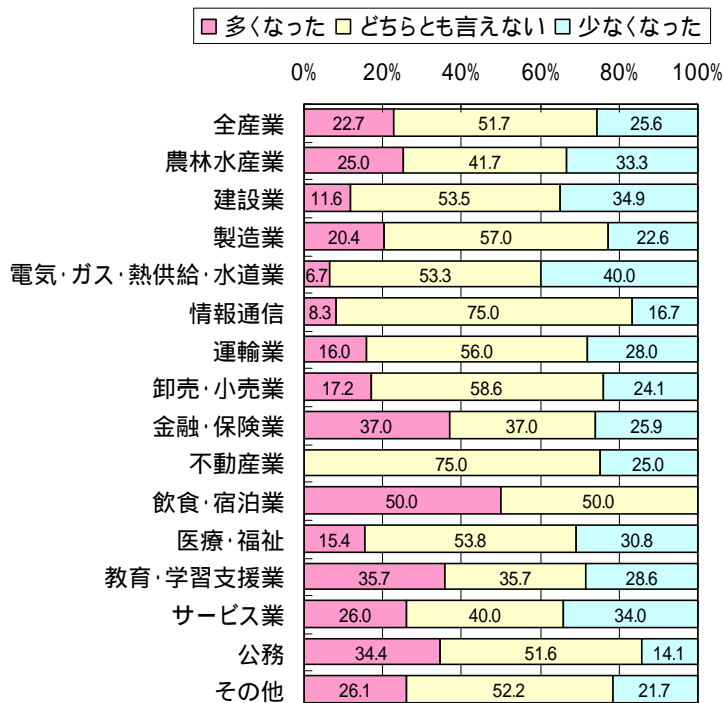
世帯主（もしくは主たる収入の担い手）の時間外勤務（残業）と休暇取得の状況、勤務状況への不満などについて、聞き取った。

- ・ 時間外勤務（残業）が「少なくなった」と答えた世帯は 25.6%を占め、「多くなった」（22.7%）と答えた世帯を上回った。特に「少なくなった」という回答が多かったのは、「電気・ガス・熱供給・水道業」（40.0%）、「建設業」（34.9%）、「サービス業」（34.0%）に従事する世帯からの回答であった。
- ・ 休暇取得の状況については、「取りづらくなった」と答えた世帯が 28.1%を占めており、「取りやすくなった」（11.6%）と答えた世帯を上回った。特に「取りづらくなった」という回答が多かったのは、「不動産業」（50.0%）、「サービス業」（34.0%）、「金融・保険業」（33.3%）に従事する世帯からの回答であった。
- ・ 勤務状況へ不満があるかどうかについては、「ある」と回答した世帯が 59.0%となっており、過半数を占めた。なお、「ある」と回答した世帯に対して、具体的にどのような事柄に不満を感じているか尋ねてみたところ、「給与・待遇」が 78.5%と最も多かった。

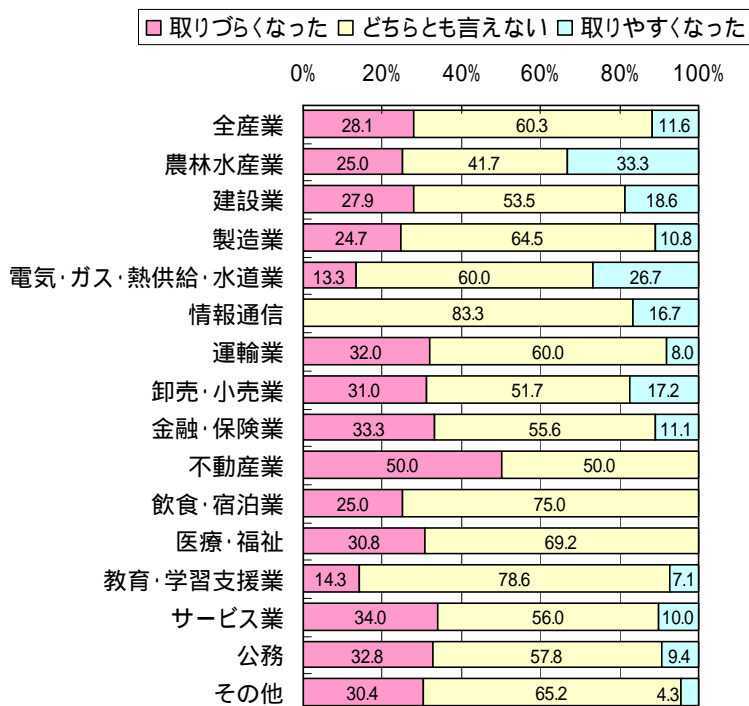
世帯主（もしくは主たる収入の担い手）の勤務先



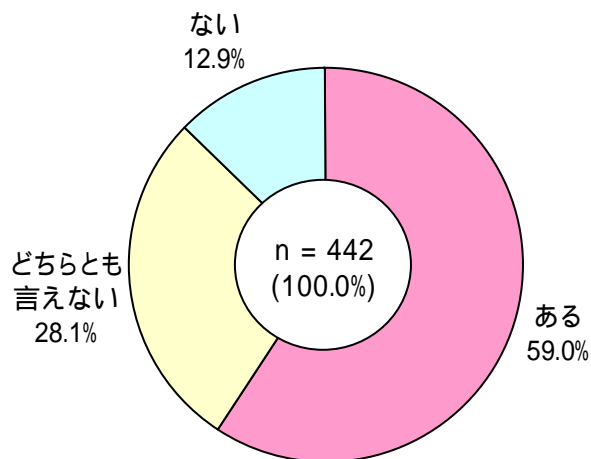
時間外勤務（残業）の状況



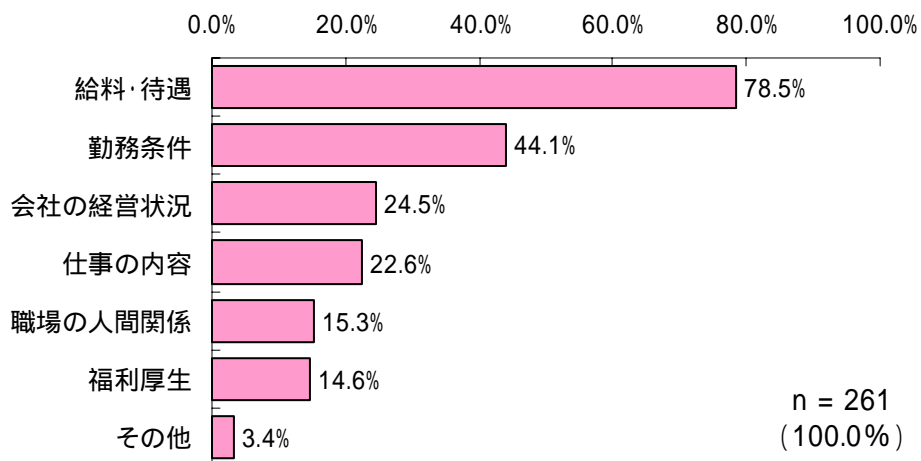
休暇取得の状況



勤務状況への不満



不満に感じていること（複数回答）



．調査の概要

1．調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2．調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：484 世帯　今回の有効回答世帯数（回答率）：458 世帯（94.6%）

3．調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

4．調査期間

- ・ 平成19年12月1日～14日

5．調査項目

（1）判断項目

景気判断（五肢択一）：

「県内景気」₁、「雇用環境」₁、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」₁、「資産価値」₁、「お金の使い方」₁、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」₁、「ファッション衣料・靴など」₁、「家電・AV製品、家具など」₁、「金融商品（株式、債券など）」₁、「娯楽・レジャー」₁、「習い事」₁、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」₁、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

（2）計数項目

最近1ヵ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(0.5)、「悪い」(1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

【お断り】

これまで公表してきました「今月の家計簿」につきましては、モニター世帯の入れ替えの影響や記述内容の正確性などの観点から、現時点では公表するには必ずしも十分な内容ではないと判断いたしました。今後、これらの問題が解決されるまでは、データの公表を見合わせることにいたしましたのでご了承ください。

以上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本/齋藤(信)/草苅

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL: 023-626-9017 FAX: 023-626-9038

E-mail: kenkyuu@sfsi.co.jp URL: <http://www.sfsi.co.jp/>